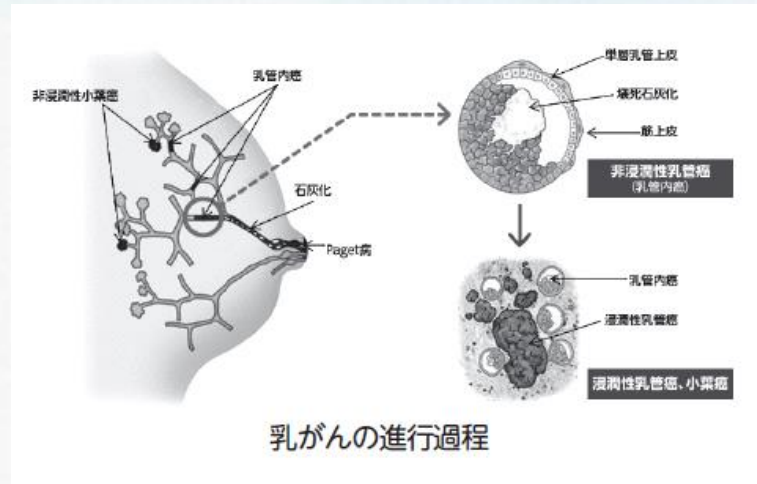


～乳がん治療が、変わりました～

市立病院では、毎年80件余りの乳がん手術を行っています。ガイドラインに従って、病期やタイプ分類に合わせて行う、個別化治療が基本です。

乳腺外来に訪れた患者さんには、その日のうちに、乳腺エコーや、マンモグラフィを受けてもらいます。組織検査を必要とするような「しこり」のある場合は、同じ日に、続けて針生検を受けてもらいます。針生検は、ほとんど傷の残らない検査で、乳がんの診断だけでなく、タイプ分類まで行うことができます。



乳がんの診断がいたら、すぐにCTやMRIなどの画像検査を計画し、病期や広がり診断を行います。その後、タイプ分類と合わせて、患者さんと相談しながら、最も適した治療方針を決定します。

抗がん剤治療などの術前治療が必要な患者さんには、ガイドラインに従った手術前の治療を行うことで、全体の約70%の人に、乳房温存手術が可能になります。

手術を行うときには、ほぼ全例に、術中迅速病理検査（手術中に、病変が良性か悪性かなどを調べる検査）を行います。これにより、乳房温存手術の断端（だんだん）（手術で切除した切り口）や、センチネルリンパ節生検を確認することによって、安全で確実な手術をめざしています。

また、奈良医大形成外科と連携し、乳房同時再建手術も開始しました。同時再建の適応のある患者さんには、積極的に同手術をお勧めしています。

これまで放射線治療が必要な症例は、奈良医大に紹介してきましたが、本年1月からは、最新鋭の放射線治療機器を導入し、当院での放射線治療が開始となりました。放射線治療専門医、医学物理士、専門技師など、充実したスタッフを集め、安全で精度の高い放射線治療が行えるようになりました。乳房温存手術症例や、リンパ節転移を伴う乳房切除術症例の術後照射などに、とても役立っています。

今回は、当院での乳がん診療の現状について、お知らせしました。

現在、乳がんに必要な治療のほとんどが、当院で行えるようになってきました。放射線治療を含め、奈良県の中南和地域の乳がん診療の中核となることをめざします。

[病院長 岡村 隆仁]